

# 女川に学ぶ東日本大震災 ～女川が歩んだ復興と地域活性化の奇跡～

Learning 2011 East Japan Earthquake and Tsunami in Onagawa

中村ゼミ発表会担当

神原 璃央, 村上 大輔

指導教員 中村 亨

中央大学 商学部 中村ゼミ

キーワード：女川，東日本大震災，地域活性化，復興

## ●. 女川の概要と震災

宮城県女川町は海に囲まれた水産業の街である。2011年、東日本大震災が発生し大きな被害を受け、住民の1割ほどが亡くなり、誰もが被災者となってしまった。元1万人いた人口は7千人台まで大きく減少し、町も人も、何もかも失ってしまった。しかしこの町が、驚異的な復興を遂げる。そこで私達中村ゼミでは、女川の震災と復興について学んでいる。

## ●. 震災について当事者の話を聞いて学んだこと

女川を訪れたことのない私達が震災に対する情報を得ることができる手段はメディアのみであった。メディアによる情報には限界があり、当時の被災地は家も学校も、思い出の詰まった写真も跡形もなく流されてしまったというイメージであった。しかし中村ゼミでZOOMを介して当事者の方々の話を伺うと実際には、現地では震災直後から若者達が立ち上がり猛スピードで復興が進んでいたことがわかった。「一般論ではまちは変わらない」その言葉の裏には、私達の想像を遙かに超えるほどの「自分たちの町を守りたい」という思いが感じられ、そのような思いを背負った人々による行動はどんな会社や企業よりも町民のニーズに耳を傾けたものであった。今自分達は何をすべきなのか、自分にできることは何であるのか。常に彼らの頭の

中に張り巡らされていたこの意識や観察力が復興の一步一步に繋がっていたと知ると共に、今後いつ同じような震災が起きても、女川のようにより早く前進することができるよう、このような意識改革をしていかなければならないと感ずることができた。

## ●. 復興と地域活性化

女川の復興は非常に速いスピードで行われたと言われている。なぜなら、住民が自発的に復興を行ったからである。女川では数十年先を見越し、若い世代が主導となって系統を超えて集結し、賑わいや人が集まる街づくりを「ゼロ」から行った。今や、町全体でイベントなどの企画を通じて多くの人を呼び込む仕掛けを行っている。過去のしがらみにとらわれず、住民が主体となり地域を盛り上げることは、地域活性化の原点であるのではないだろうか。

## ●. 女川の復興から学ぶこと

復興を若い世代が主体となって成し遂げたのは、過疎化や後継者問題といった住民の震災前からの危機意識を礎とし、多様な分野の人が集結して地域に即したトータルコーディネートを行ったからである。だからこそ「復幸」も成し遂げた。地域活性化のためには、行政だけに依存するのではなく

地域の問題点に対し、住民（特に若い世代）が参画することがどれほど重要なことか学ぶことができた。

#### ●. 総括

女川の現地の人からの話や復興のプロセスは非常に学ぶべきものが多い。震災はいつどこで起きるかわからず、少子高齢化により復興を直接的に担える人材も少なくなっている。いざ震災が起きたとき、女川のように早期の復興と、子供への「心のケア」といったコーディネートまで手を回すことができるだろうか。加えて今では、震災以前に増して観光振興に力が注がれ、地域活性化も実現している。若き変革者が成し遂げた女川の例をもとに、地域活性化についてより勉強していきたい。